

2018年8月 チャクドラコロニーワークキャンプ報告書



【活動日程】 8月11日～8月23日

【活動場所】 インド西ベンガル州ボルドワン県チャクドラハンセン病コロニー

【参加者（日本）】 計6人 渡部由佳（筑波大学3年）、酒井美和（東京外国語大学4年）、和田夏音（筑波大学3年）、河合立希（名古屋大学2年）、末崎周（筑波大学1年）、杉山哲也（名古屋大学2年、持病のためインドへは渡航せず）

【参加者（インド）】 計1人 Subrata Baksi（通訳）

【活動報告】

《リサーチプロジェクト》

《概要》ハンセン病コロニーの近隣住民50人を対象に、ハンセン病やコロニーへの意識調査、また収入など地域の情報調査を行った。コロニー内では、井戸とハンドポンプの水質調査と、次回以降に実施するワーク（家屋修繕・建設）の事前調査として村人ミーティングや各家屋の状況調査を実施した。

〈コロニー外リサーチ〉

《目的》コロニーがある地域の収入・教育・就労等の基礎情報を把握する。さらに調査の結果をもとにコロニー内の状況と比較することによって、コロニーが抱える課題を整理する。また、ハンセン病に関連する質問を通じて、コロニーに対する差別意識の有無や程度を調査する。

《成果》コロニー周辺に住む人々の生活水準を明らかにし、コロニー内での調査結果（2018年3月に調査実施）と比較することでコロニーの現状をより客観的に把握することが

できた。また、コロニー周辺に住む人々がハンセン病コロニーに住む人々に対し、特に結婚などの人間関係において潜在的な差別意識を抱いていることが確認できた。

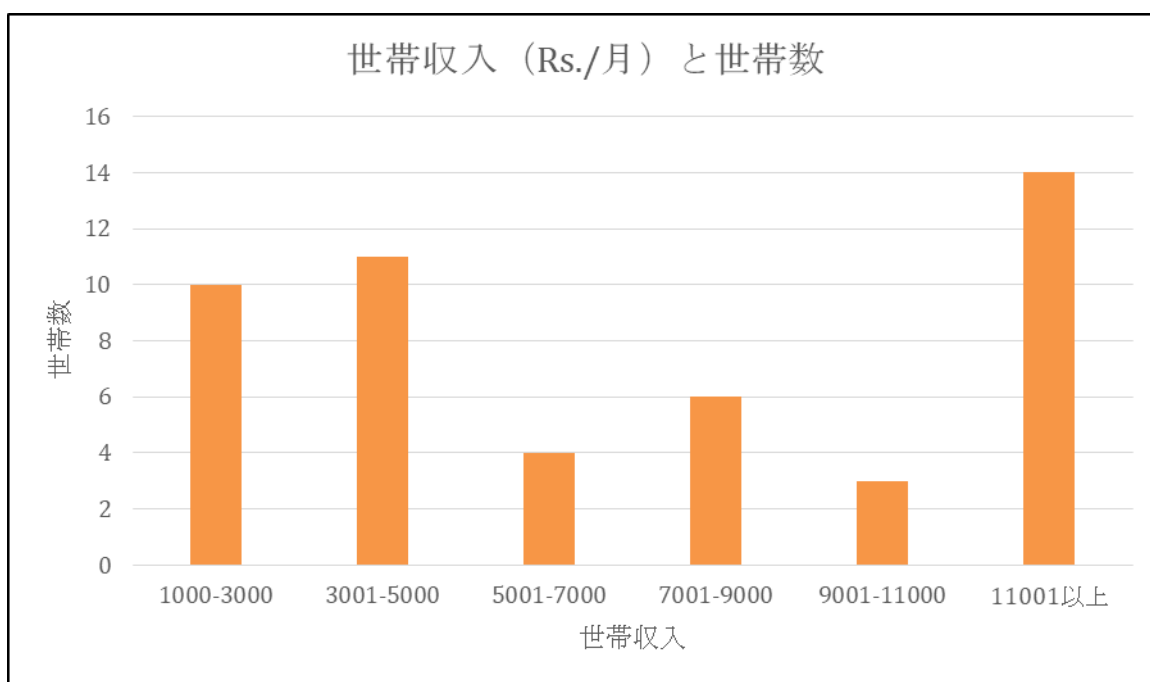
以下に調査結果のデータを示す。

*世帯収入（月/Rs）

最低値：1,000

最高値：122,000

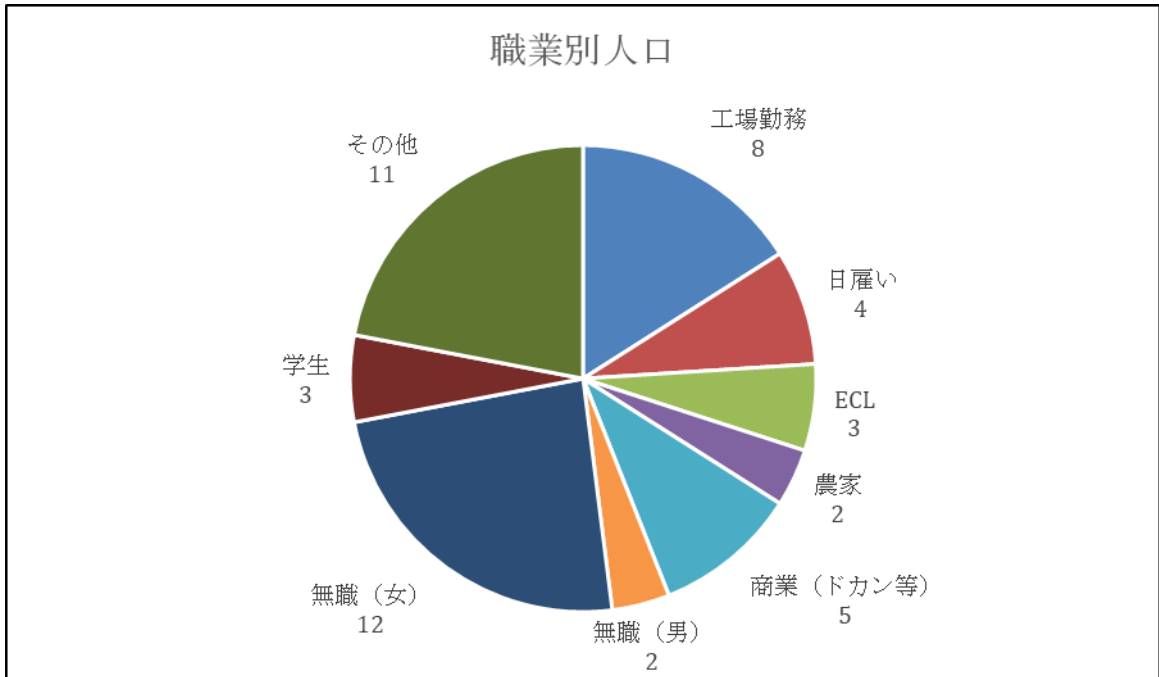
中央値：6,000



※世帯収入が11001以上の世帯の内訳

世帯収入 (Rs./月)	世帯数
11001~30000	10
30001~50000	2
50001~70000	1
70001~	1

*職業別人口



※ECL…Eastern Coalfields Limited という石炭を生産する国営会社。

*アウトカーストの人々に対するネガティブな感情の有無 (以下単位は人)

ある : 0

ない : 50

*ハンセン病を知っているか

知っている : 23

知らない : 27

*ハンセン病コロニー出身者へのネガティブな感情の有無

ある : 3

ない (知らない) : 45

未回答 2

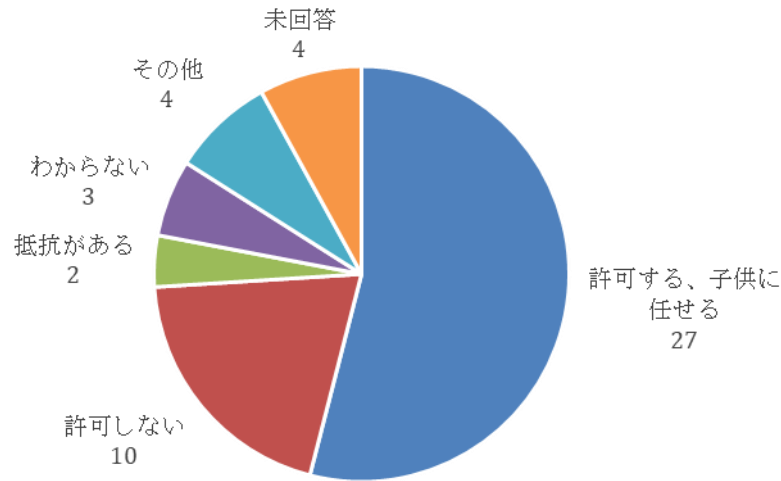
ネガティブな感情があると回答した人の回答詳細

(理由) 後遺症があるから、病気がうつりそうだから、スティグマがある

(具体的な態度) 水や食べ物はあげない、コロニーの人が作ったものは受け取らない

*子供がハンセン病コロニー出身者と結婚したいと言ったらどうするか

子供がハンセン病コロニー出身者と結婚したいと言ったらどうするか



※その他→後遺症の程度を見てから考える（１）、後遺症のないひとならいい（１）、すぐには許可せず家族と相談する（２）

〈水質調査〉

《目的》２０１８年３月キャンプのResearchにおいて、コロニー内にある井戸とハンドポンプの水質汚染が懸念されたため、実際に水質がどうなっているのかを明らかにし、今後ワークにおいて水質問題にアプローチしていく必要があるのか否かを判断することを目的とした。

《成果》今回用いた調査キット（共立 パックテストによる井戸水検査セット）で調査可能なPH、鉄、全硬度、COD、亜硝酸の５項目に関しては、ハンドポンプから採取した水から基準値を超える鉄が検出された以外は問題がないという結果であった。しかしこの５項目の結果のみでは飲用に適しているか否かの判断ができないため、調査結果はあくまでも参考程度と考えるべきであろう。

〈次回以降実施するワークの事前調査〉

《目的》コロニー住民が抱えるワークニーズを明らかにし、今後行うワークを決定する上での判断材料とする。また、実施可能性の高いワークについて詳細な予算や必要物品、かかる期間等を事前に調査することで、日本に帰ってから次回キャンプに向けての準備をスムーズに行えるようにする。

《成果》コロニー住民の話から、一番望まれるワークは家屋修繕・建設であることがわかった。その上で村人ミーティングを実施し、次回以降でそれをワークで実施していくことへの同意を得ることができた。その後の各家屋の状況調査により、各家屋に対し新築・修繕のどちらが適しているかどうかや、ワークにかかる詳細な予算等を明らかにすることができた。



図 1 コロニー外リサーチの様子



図 2 井戸から採取した水の調査を行っている様子



図 3 村人ミーティング



図 4 家屋の状態を確認している様子

《絵本プロジェクト》

《概要》日本の絵本をベンガル語に翻訳したものを日本から持参し、コロニーの人々にプレゼントする。またその絵本を使って、コロニーの人々（主に子供たち）に対して読み聞かせを行ったり、一緒に絵本を読んで交流をした。

《目的》情緒豊かであるとされる日本の絵本に触れてもらい、情緒や教養を育む。絵本の読み聞かせを行うことで、コロニー住民に識字や教育の重要性を理解してもらうとともに、キャンペーとコロニー住民との交流をはかる。

《成果》普段絵本に触れる機会があまりないであろうコロニーの子供たちに非常に喜んで

もらえた。子供たち同士で読み聞かせをしたり読み方を教えているような光景も見受けられた。また、キャンプの序盤にこのプロジェクトを実施したため、キャンパーとコロニー住民とが打ち解けるいい機会となった。



図 5, 6 絵本を読む村の子供たちとキャンパー



図 7 子供たちの家で大切に保管されている絵本



図 8 絵本をもって嬉しそうな村の子供とキャンパー

《エンタメプロジェクト》

《概要》コロニーアウトの前日に、住民への感謝の気持ちを込めてフェアウェルパーティを実施した。パーティの前にコロニーの外の子供たちも含めてシャボン玉で遊んで交流し、パーティではキャンパーが感謝の言葉を述べた後ダンスを披露し飴を配った。

《目的》日本人キャンパーとコロニー住民が交流を通して仲を深め、信頼関係を構築・継続させていく。そのことによって今後もチャクドラコロニーで円滑に活動を行えるようにする。ひいては、コロニー住民と日本人が共に楽しそうに交流しているのを周辺住民に示し差

別意識を低減させる。

《成果》キャンパーからコロニー住民への感謝を直接伝えることができたとともに、コロニー住民との良好な関係を継続させることができた。今回はダンスを披露したのは日本人だけであったが、次回以降はコロニー住民も出し物をするとう提案してくれ、お互いの信頼がより深まっていることが確認できた。



図 9 シャボン玉で遊ぶ子供たちとキャンパー



図 10 村人に感謝の気持ちを述べているところ